２０１４（平成２６）年度
法務研究科　法務専攻（法科大学院）Ａ日程　入学試験問題

# 「　小　論　文　」

〈９０分〉
（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

---

【問題】
以下の文書は『安全か危険かではなくリスク管理を』（松永和紀著）の抜粋である。これを読んで以下の問いに答えよ。

設問１　筆者が主張したいことを解答用紙１０行程度で述べなさい。
設問２　リスクとはトレードオフであることを、罹患して病院に行く場合を例にして説明しなさい。

【文書】

問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
ご不便をおかけしますことお詫び申し上げます。

入試日程　A日程　　題科目名　小論文

１．出題の意図

問題文は、リスクについての現実をふまえてリスク管理にあたっての考え方を述べた文章で、タイトルのついた３つの段落から構成されている。

設問１は、各段落の内容を把握するとともに、段落相互の関係を理解し、これを文章として分かり易く構成・表現する力を測定する問題である。

設問２は、第３段落で記述されている「リスクのトレードオフを知る」の内容を理解した上で、文中に挙げられた具体例を参考にして、「罹患して、病院に行く」という日常的な行為を多角的かつ広範な視点で展開していく力を測定する問題である。

２．講評

設問１については、各段落の内容を正確に把握し、これを簡潔な表現で文章化しているか否かが最初のポイントとなるが、文中にあらわれるキーワードを充分理解して有効に使っているかどうか、分かり易く文章が展開されているかどうかで差がついた。問題文は、最後に結論が来る形ではなく、段落毎に筆者の主張のポイントがあり、それを落とさずにとらえていくことで筆者の言わんとするところが理解できるという構成になっている。筆者の主張を述べていくためには、各段落の内容を的確に理解・要約して記述をしていく必要がある。そのため、文章化していない段落のある答案は、減点評価せざるを得なかった。また３つの段落相互の関係は、第１段落が総論（リスクは減少しているが、決してなくなることはなく、管理をしなければならない)、第２・第３段落がリスクを管理するにあたって個別の各論（第２段落は、科学は常に不確実性を伴うものであり、白か黒かと断定してはならない、と述べ、第３段落は選択にあたってはその手法の持つ利点と欠点を衡量しなければならないことを述べている）という構成になっているが、この構成を読み取ることなく、ただ文章の順序にしたがって書き並べただけだと思われる答案が半数近くあった。第２段落を発展させたものが第３段落ととらえた答案も散見されたが、全体の構成の誤解ということで、これらは低い評価しか与えられなかった。

設問２については、「罹患して、病院に行く」ことの利点と欠点を述べることになるが、片方しか取り上げていない答案については、多角的な見方が出 来ていないと考えられるので、低い評価しか与えられない。利点・欠点の双方を記述していた答案については、その中で、いかに広範な視野を持って、多角的に考察し、数多くの例を挙げているか、それらが整理されたわかりやすい文章で展開されているかにより、得点に差が付いた。